

第2回 第2次三遠南信地域連携ビジョン策定委員会 議事概要

日時 平成29年9月11日(月) 10:00~12:00

場所 豊橋商工会議所 3階ホール

出席者 別紙のとおり



1 開会

2 委員長あいさつ

【委員長：静岡文化芸術大学 池上副学長】

- ・前回8月2日は浜松市役所で、今回は豊橋商工会議所で場所をお借りして開催する。様々な団体、様々な地域からご出席いただいている中、前回のような口の字の会議では皆様からご意見をいただく時間が短かった。新ビジョンに対する皆様の想いをなるべく多くいただくために、今回はグループワーク方式で意見交換する。
- ・10月30日に、新ビジョンの策定をテーマに掲げ開催を予定している三遠南信サミット2017in遠州に向けて、この策定委員会で皆様の活発なご意見をいただきたい。

〔事務局からの確認〕

本日の委員会は報道公開し、議事要旨についても公開するので、了承いただきたい。

3 議事（議事進行：委員長）

(1) 新ビジョンの目的（案）について（事務局から説明）

【法政大学 高柳教授】

「(5) 地域の持続的発展を支える人づくり」では、女性、外国人など多様な意見を取り入れるとあるが、今日の策定委員会には女性、外国人、若者などはいない。どのように意見を取り入れていくのか。

【事務局】

新ビジョンの策定においては、産学官連携ということで、学識者の方にもご参加いただいているが、若者として学生の意見を取り入れる機会も設けられたらと考えている。

【委員長】

先日までシンガポールに出張していたが、日本への観光ニーズが高まっていると聞いた。付加価値をどのように発信していくかが大事であり、三遠南信地域内での連携や議論だけでなく、それをどのようにグローバルに発信していくかも重要であると感じた。

【副委員長：豊橋市 広田部長】

目的の書き方が、目的というよりも社会情勢の認識や課題というような書き方に感じる。目的として掲げるのであれば、もう少し新ビジョンへの想いや意気込みが感じられるような書き方にした方がよい。

【事務局】

可能な限り書き方を修正し、今年度のサミットでは、この目的（案）を示したいと考えている。

【委員長】

目的を意識した書き方に修正するというので、この目的（案）の項目や方向性については承認いただけるか。（異議なし）

（2）新ビジョンのテーマと地域像（案）について

【長野県 宮島企画幹】

全体の方向性に異論はないが、例えば6ページの「中山間地域ゾーン」の中に、既存集積ゾーンや、内陸フロンティアゾーンなど、前回のままの単語が入っている。全体的に語句や言い回しなど、もう少し精査する必要がある。

【事務局】

事務局の修正誤りである。全体的に修正を行う。

【法政大学 高柳教授】

テーマのうち、「三遠南信流域」という言葉は聞き慣れない。一般的に流域といえば川をイメージするが、三遠南信という川はないため、違和感がある。もう少し説明いただきたい。

【事務局】

現行ビジョンのテーマにもなっており、前回策定時に「三遠南信流域都市圏」という言葉に関しては議論があった。流域というと河川の周辺の地域を指し、都市圏というと大都市を中心として周辺の地域を指すのが一般的である。この地域の連携が川を通じた連携から始まっていることから、天竜川、豊川の上流から下流までを一体として地域をとらえていくという意図でこの言葉をテーマに掲げている。

【愛知大学 戸田教授】

流域都市圏という言葉は一般的に違和感があるが、前回策定時に上流と下流の連携を一体的にとらえてこの言葉が選ばれた経緯がある。

サブテーマの県境連携モデルについて、もう少し説明いただきたい。

【事務局】

SENAは自治体と経済団体からなる団体であり、事業においては大学や金融機関とも連携している。この地域の連携が自治体間だけの連携ではなく様々な分野の団体からなるものであることから、県境連携モデルとしている。

また、過去のサミットでもこのテーマを1度掲げたことがある。

【豊橋商工会議所 星野専務理事】

この10年間で様々な変化があり、産業界では厳しい状況となっている。新ビジョンでは形を整えるだけのものではなく、1つでも実現できるように、一つ一つの政策での検討を進めていければと考えている。

(3) 新ビジョンの地域連携事業方針とイメージ（案）について（事務局から説明）

【事務局】

各グループで、5つの方針のうち、2つずつの方針について意見交換をしていただく。1つの方針に15分ずつ、その他の意見やまとめで15分、計45分でのグループワークの後、各グループの進行役にグループでの意見のまとめの発表をお願いします。

——各グループでのグループワーク——

【豊橋市 広田部長】 グループ1（道、技）

「共通」

- ・全体的に現行のビジョンに比べ現実的なものに変更されている印象がある。現行のビジョンで実現できなかった部分の反省であると推測されるが、ビジョンは地域一体となった未来への指針であるため、もう少し前向きな、夢を語るような内容であってもよい。

「道」

- ・現行ビジョンでは基盤整備の記述があったが、今回は記述がない。SENA構成員は基盤整備の主体になるわけではないが、整備への要望は可能であり、地域全体の基盤整備への需要がこのビジョンの背景にあるため、基盤整備の記述は入れてもらいたい。
- ・具体的な事業として、市町村を越えた広域的な公共交通ビジョンがあるとよい。

「技」

- ・人材の確保も重要であるが、生産性を高めることや技術革新への対応を地域一体として取り組むことも意識してほしい。
- ・前回ビジョンにあった企業誘致や、コミュニティビジネスについても、しっかりと記述を加えていただきたい。
- ・信用金庫の連携についてはこの10年で枠組みができた。今後その枠組みをどう活かしていくのが重要であるため、記述を加えていただきたい。

【法政大学 高柳教授】 グループ2（風土、山・住）

「風土」

- ・キーワードとなっている地域資源について、地域内の人からすると資源と感じられなくても、外から見れば資源である場合がある。何が地域資源なのかを認識することが大事である。具体例として、阿智村の星空や飯田線の秘境駅などが挙げられよう。
- ・飯田線とリニア中央新幹線のつながりのほか、路線バスも大事だし、ダムカードやマンホールカードの人气が高まっているという報道もある。
- ・道の駅のネットワークの重要性や、伝統芸能の保存団体相互の連携、保存への企業からの支援も重要ではないか。

「山・住」

- ・多文化共生の視点では、現状だけでなく、満蒙開拓、飯田の焼肉文化、飯田線建設に尽力したアイヌのカネトなど、歴史的な背景にも目を向ける必要がある。
- ・廃校についてはマイナスとのみとらえるのではなく、この春で廃校となる浜松市の鏡山小学校を利用してAKB48がミュージックビデオを作成し、それがNHK合唱コンクールの課題曲になっている例もあり、プラスに変えていく視点もほしい。
- ・地域おこし協力隊の記述は、「風土」「人」で見られるが、むしろ「山・住」で取り上げるべきではないか。
- ・海や湖はどの方針に含まれるのか。

「その他」

- ・「道」に国道151号、152号の記述はあるが、153号はなく、地域外との連携も考える必要があるのではないか。
- ・「技」では、TOKAIVISIONとの関係も記述として含まれるとよい。

【委員長】

海や湖が、どの方針に含まれるかということについて、事務局に説明いただきたい。

【事務局】

各方針の「道」や「技」を見ていただけると、各方針の境界を緩くとらえているのがこのビジョンの特徴である。分野間での連携も深めるためにこのようにしており、海や湖はどの分野でも取り込めるものであると考えている。

【浜松市 山名部長】 グループ3（道、風土）

「道」

- ・事業イメージの中で要望が多く含まれており、実際にこれまでも取り組んできた。要望をする際にはそのメリットを意識して行うことが重要であり、道路の整備予定と、その他の取組予定とのマッチングを考えながら策定を進める必要がある。
- ・推進方針の2の流動という言葉は、1か所にとどまらず流れるという意味なので、交流という言葉の方が理解を得やすいのではないか。
- ・「風土」だけでなく、「道」での飯田線について、リニア中央新幹線と中央高速道路との連結についての視点が必要ではないか。

「風土」

- ・地域が大きいため、多様性の表現の仕方が重要である。
- ・「おんな城主 直虎」について、新たに注目された資源について今後どのように活かしていくかも重要ではないか。
- ・軽トラ市など、マスコミを通じて注目が得られやすいものを、マスコミを活用しながら取り組んでいくとよいのではないか。
- ・リニア中央新幹線の長野県駅の活用方法も検討する必要がある。
- ・短いPR動画などで、若い世代への情報発信が必要である。

「人」

- ・人材の確保や育成については、広域で取り組んでいくことが大事であるため、「人」という基本方針がビジョンで掲げられるのはよいことである。

【愛知大学 戸田教授】 グループ4（山・住、人）

「全体」

- ・事業イメージの表現が矮小化されており、実事業が各構成団体から引き出せるような書き方が必要である。

「山・住」

- ・「山・住」という表現は分かり難く、まとめた言葉が欲しい。
- ・住の生活像として、当地域の資源である農林業の記述が欠けているため、盛り込んだ方がよい。
- ・中山間地における高速道路や鉄道の整備に伴うアクセスの改善による利便性の向上など、観光だけでなく生活面での視点も盛り込んだらどうか。
- ・上流・下流の交流や、二地域居住に関する記述を追加できないか。
- ・事業イメージで婚活が入っているが、女性の働き方改革や出生率の向上を盛り込んで、別テーマとして外出ししてはどうか。
- ・遊休施設だけでなく、既存資源に関する記述を加えたらよい。

「人」

- ・推進方針の1と2が入り組んでいるように見受けられるので、推進方針1は「人材の育成」、推進方針2は「知識・情報の共有」とまとめていくことを考えたらよい。

- ・企業や地域等の中における中高年層やリタイア人財の活用の視点が足りないため、企業等と中高年層やリタイア人財の間に生まれるミスマッチを解消できるような仕組みや起業できる仕組みを構築出来たらよい。
- ・県境を越えた行政人材の連携・育成・共有化は、三遠南信地域特有の取組みとなるのではないか。

「その他」

- ・「道」の基本方針では、リニア中央新幹線の整備によるインパクトをどのように受けるかという観点が重要になる。
- ・「道」の推進方針1の主要施策①では、三遠南信地域と三遠南信地域以外が連携する（例：防災での遠隔地連携、海外との地域連携）ものが、盛り込まれたらよい。

【豊橋商工会議所 星野専務理事】グループ5（技、人）

「技」

- ・三遠南信地域が持続的に発展、維持するためには、「稼ぐ」ということが大事。
- ・既存の産業が苦しい中、創業というものは大変厳しい。そこで既存の産業をどう維持していくかが一番の課題である。
- ・ただ単に従業員を呼び込むのではなく、実際に事業を承継していく人材を、~~大~~大都市から呼び込むことが肝要。
- ・当地域での農林水産業における高いポテンシャルをどう発展させていくかの記述がほしい。
- ・形成されたクラスター同士や地域同士のネットワークやコミュニティ作りが大切。クラスター同士の連携が必要である。
- ・「働き方」という視点も大事であり、女性や高齢者の参画という配慮が産業も含め様々な分野で必要となる。

「人」

- ・「技」と関連する部分が多く、人の確保が難しい状況のなかで既に働いている人のスキル、キャリアアップなどの育成も必要。

「全体」

- ・常に三遠南信全体での視点で考えるのではなく、東三河と南信州、南信州と遠州など、フレキシブルな考えもあってよいのではないか。

【法政大学 高柳教授】

「技」に盛られた大学連携に関連して、4年制大学がない飯田市では、市内でフィールドスタディを行う大学をつなげて、学びの輪をつくる、「学輪 IIDA」というものがある。そこには、遠州や東三河の大学の参加もあり、重要な実験的取り組みる。

また、長野県のアンテナショップ「銀座 NAGANO」では、販売だけでなくイベントを行うことができるスペースがある。三遠南信でもそのようなことができるとよいと思うし、東京でイベントを行う際は協力させていただく。

4 その他

- 本日の議論を踏まえ、資料を修正して意見照会させていただく。意見照会の結果を踏まえ、10月30日（月）に開催する三遠南信サミットの分科会、同日開催の SENA 拡大委員会で、策定の状況について報告する予定である。
- 三遠南信サミットのチラシは現在作成中であり、9月の下旬には配付を予定している。サミット当日は13時40分から全体会、分科会、報告会、交流会の順に概ね20時ごろまでのスケジュールで開催する予定である。
- 年度内にもう1度、策定委員会の開催を考えている。

5 閉会

第2回 第2次三遠南信地域連携ビジョン策定委員会 出席者名簿

分類	団体	役職	氏名	備考
委員長	静岡文化芸術大学	副学長	池上 重弘	
委員	法政大学	教授	高柳 俊男	
委員	愛知大学	教授	戸田 敏行	
委員	浜松市	企画調整部長	山名 裕	
副委員長	豊橋市	企画部長	広田 哲明	
委員	平谷村	総務課長	滝澤 浩	
委員	愛知県	東三河総局 企画調整部長	矢野 浩二	
委員	長野県	総合政策課 企画幹	宮島 克夫	代理
委員	浜松商工会議所	商業観光課 課長代理	大石 和孝	代理
委員	湖西市商工会	事務局長	柴田 和利	
委員	豊橋商工会議所	専務理事	星野 君夫	
委員	新城市商工会	事務局長	山本 政義	
副委員長	飯田商工会議所	専務理事	福澤 栄二	
委員	駒ヶ根商工会議所	専務理事	富永 満	
委員	三遠南信住民ネットワーク協議会	世話人	平川 雄一	

分類	団体	役職	氏名	備考
オブザーバー	浜松信用金庫	法人営業部 副部長	井口 浩利	
オブザーバー	豊橋信用金庫	事業支援部 副部長	宮川 直樹	代理
オブザーバー	飯田信用金庫	地域サポート部長	大蔵 雅彦	
オブザーバー	国土交通省中部地方整備局	広域計画課長	森山 幸司	
オブザーバー	国土交通省中部運輸局	交通政策部計画調整官	岩松 由洋	
オブザーバー	経済産業省関東経済産業局	地域経済部地域振興課長	工藤 浩一	
オブザーバー	経済産業省中部経済産業局	地域経済部地域振興課長	嶋田 明彦	
オブザーバー	農林水産省東海農政局	農村振興部農村計画課長	山方 正治	